

## 2019年度 アップール会本部役員会議事録

1. 開催日時 2019年4月19日(金) 14時～17時

2. 開催場所 東洋食品工業短期大学 会議室

3. 出席者

会長・四国支部長	西山 正一
副会長	富樫 健
同	田中 喜徳
同	松原 清俊
北海道支部長	豊田 勝己
東北支部長	三枝 通晃
関東支部長	篠原 龍浩
信越支部長	中村 正和
静岡支部長	石田 雅則
名古屋支部長	岡本 雅志
近畿支部長	長塚 洋二郎
中国支部長	竹内 毅
九州支部長	原 裕久
会計幹事・事務局長	斎藤 至康
会計監査	本間 欽吾
同	中野 栄介
相談役	野上 健次 (17名)

役員会開催に先立ち

去る3月8日にご逝去されました、後藤前学長に対して役員および学長等の皆様により黙とうを行ないました。

—千本学長から短大の近況報告について—

大学を取り巻く環境においては少子化の波が押し寄せてきており、今後は元気でやる気のある学生を集める事に苦勞をしていく状態となっております。

人口減少社会では確実に学校の数が減少し、我々としては独自で安定経営が出来、ゆるぎない特徴を持ったブランドになるという事が、これからの学生に選ばれる存在にならなければ、生き残っていくには難しい時代となっております。

また実社会では新しい製品、サービスを生み出すことが求められており、現場を担う「現場人」という方々には、自分達で問題解決を成し遂げていける技量が求められております。

時代は「平成」から「令和」になりますが、この厳しい時代に、我々が取り組むべき最重要課題は、次の世代を切り開いていける人材育成だろうと確信をしております。

本学の建学の精神は昭和の時代に作られ掲げられたものでありますが、今の時代に照らし合わせてもまったく古い感じはしません。

従ってこれからも本学の特徴である少人数制で、実習・実験といった講義を中核として、学生との対面教育の充実を向上させていく考えであります。

さらに IT 機器を扱う経験とかチームで課題を解決していく訓練を通じて我が国の食品業界が、今そしてこれから求める人材が育つ大学にしていきたいと考えております。

本学のブランド価値が高まっていけば、アピール会の今後の発展と充実、会員の皆様の本学への期待をいただけるものだと考えております。

今後とも本学へのご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

学生に関することは、3月に卒業した57期生卒業生38名に対して企業派遣の8名と進学者1名を除く就職対象者が29名のうち、27名が就職をした。

今年度59期生の入学状況は、志願者数が53名で、39名に合格通知を出しましたが、辞退者が出て定員35名に対して34名の入学者となった。

現在70名の学生のうち女性が約三分の一となっています。

社会人向け講習会のうち「包装食品工学総合コース」は文科省からも強い推奨があり、一昨年に比べると人数も増えており、今後とも力を入れてやっていきたいと考えております。

外国人向け短期研修会は、今年3月にタイのランシット大学から10名、昨年秋にはがタイ・インドネシアから7名が受講に来ております。

例年受け入れ人数を増やしてほしいとの要望もあるが、短大としての受け入れキャパシティがぎりぎりであり今後の課題となっています。

本学における研究テーマは「産業界に役立つ」事を主眼に、受託研究・共同研究として取り組んで、産業界での課題を学生と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

最後に2019年度本学の活動方針についての説明として、まずは文科省より、教育の質の向上の指導、人口減少による学校の統廃合により、生き残りを見据えた教育の特色、特徴のあるブランドを持つことを考えており、厳しい時代を乗り切るには、教育の質の強化、本学の特色を伸ばして、包装食品に関する包括的教育が可能な食品産業を支えるオンリーワンの機関である事を、広く認識させるのを我々の使命目標としていきます。

業界のニーズは課題を解決できる人材、技術革新を押し進める人材を求めている

るだろうという認識で、本学のブランドの強化を徹底して、特色を分かってもらえる活動をしていかなければと課題を捉えて、下記の目標を抱いております。

- ・構築してきた改革の礎をさらに発展させ。
- ・特色を前面に打ち出したブランド力の強化発信。
- ・教育の質の向上。
- ・情報通信技術を活用して生産性の向上。
- ・本学の設備や技術を活用して産業界でのお手伝い。
- ・農水産学校との教育の域を深める。
- ・一人一人が改革の推進者である事の自覚。

以上が 本学の紹介と方針についての説明とさせていただきます。

定刻 西山会長、議長席につき本日役員 2/3 以上の出席でありますので、「アピール会会則第 16 条」により役員会は成立した旨を告げ、開会を宣言。

#### 4. 議題

##### 第 1 号議案 2018 年度収支決算報告の件

齋藤会計幹事より別添資料 1 に基づき報告、併せて中野会計監査より監査報告があり異議なく承認された。

##### 第 2 号議案 2018 年度会費納入状況報告の件

齋藤事務局長より別添資料 2 に基づき報告、原案通り承認された。

##### 第 3 号議案 2018 年度支部活動報告の件

各支部長より 2018 年度の支部活動および 2019 年度の活動計画について報告があった。

##### 「北海道支部」

昨年は大きな地震が発生したが、会員及び関係者の人的被害や建物の倒壊等はなかったのは不幸中の幸いでありました。

10 月 20 日に札幌で支部総会を開催、支部会員の出席者は 5 名で東北支部からは佐々木副会長他 1 名が出席した。

トピックスとしては、中井理事長がアピール会に関心を向けていただき出席され講演をいただいた。

他に本部からの要請で、OB の高倉氏によるコーヒーに纏わる講演をした。

今年度も 10 月に総会を行う予定をしている。

##### 「東北支部」

昨年 6 月 16 日に福島で支部総会を開催 会員出席者は約 30 名。

学校からは宮尾先生が講演の為出席した。

今回の総会では若い人達に沢山来ていただきたく為には、どうすればいいか?・・・、総会に来れば学校とのパイプが出来るという事だと考え、今後も毎年学校から先生方に来ていただき、講演や色々な新しい情報を若い人にも

聞いてもらえる集まりにしていきたいと考えている。

今年は 5 月に山形で総会開催を予定しており、学校からは新学長と先生が出席予定となっている。

総会開催に関して支部長の負担が余りにも大きすぎると感じ、その負担軽減の為にも、今後は各県持ち回りで総会を取り仕切ってやっていきたいと考えています。

#### 「関東支部」

去年は幹事会を 2 回開催。支部総会は 7 月 28 日に開きましたが、迷走台風の影響で出席者が 9 名と少なかったです。

短大からは高橋先生が介護用のレトルト食品について講演をしていただきました。

今年の総会は 7 月 21 日に東京で開催を予定しており、千本学長の出席をお願いしている。

行事については今年は魚釣りを計画しています。

#### 「信越支部」

毎年花見を兼ねて支部総会を行う段取りで案内をしたが、3 名しか集まらなかった為開催を見送りました。

支部会員は事務職の人が少なく、現場職で幹部の方が多く休暇を取れないという話があり、今後どのような形で総会を開催していけばいいか悩みの種となっておりますが、今年は何とか開催をしていきたいと考えております。

#### 「静岡支部」

昨年 5 月に幹事会をしましたが 3 名しか集まらず、総会には会員を集めようと思い、大手ブランド 4 社の社長にまで声を掛けましたが、中々集まらず総会が出来なかった。

今年もゴールデンウィークに幹事会を予定しているが、大手ブランドの工場見学を兼ねて総会を予定すれば、集まるだろうという考えで予定を組んでおります。

#### 「名古屋支部」

去年は幹事会しかできなかった。

今年については秋口に総会が開けるだろうと予定しており、幹事会から初めていきたいです。

#### 「近畿支部」

昨年 11 月 15 日に UCC 上島珈琲（株）の六甲アイランド工場の見学を兼ねて同工場で支部総会を開催。会員出席者は 14 名（男性 12 名・女性 2 名）。

学校からは鈴木学科長が出席、短大の近況報告と「包装食品容器の特徴と役割」についての講演が行われ、他に樋口事務職員も出席。

相変わらず会員の人数が多い割には出席者が少なく、メンバーも固定化しているので、何とか打開策を考える必要に迫られている。

今年は秋に MCC 食品（株）の工場見学を兼ねて総会開催を予定している。

「中国支部」

過去総会開催の声をかけても 5 名～10 名程で集まりが悪く、ここ数年は開催を見送っている。

今年は何とか総会開催に向け、役員人事を含め今後の総会のあり方を根本的に見直していきたいと考えている。

「四国支部」

2 月 16 日に善通寺市で支部総会を開催。会員出席者は 10 名。

学校からは鈴木学科長による「プラスチックの包装」についての講演。

今年も年明けの冬に開催を予定している。

「九州支部」

昨年 9 月 22 日に博多で支部総会を開催。会員出席者は 14 名。

学校からは鈴木学科長が出席され短大の近況報告と「包装食品容器の特徴と役割」についての講演が行われた。

第 4 号議案 2019 年度収支予算書（案）の件

斎藤会計幹事より別添資料 3 に基づき報告、原案通り承認された。

第 5 号議案 役員人事一部変更の件

昨年役員会開催後日に副会長の佐々木氏幸治氏から富樫健氏に交代されていましたが、本役員会にて正式に了承を得た。

第 6 号議案 自然災害による会員への支援活動の件

昨年の役員会で、議題となった「アピール会会員に対するボランティア活動の登録会員」制度の年齢制限等について議論をしたが、時間の関係上本役員会まで持ち越しとなっていたので今回再度議論を行った。

① 定年制について

現在 63 名の会員が登録されているが、高齢化で平均年齢が 60 歳を超えている為、定年を設けるかについて議論をしたが、支援対象が会員である為、一般的ボランティアの様に肉体的な活動ばかりでなく、色々な支援活動が考えられる。

また 支援活動の依頼があっても強制的ではなく、健康状態や活動場所等により登録者自身の判断にゆだねる事が可能である為、定年制を設けずに健康上等で活動が出来なくなった時点で、脱会を申し出る事で了承を得た。

② 登録会員の募集について

登録会員数が支部によっては極端に少なく、出来れば各支部 50 名程の「登録会員」を作り、会員から災害による支援要請があれば、支部長が登録者リストから必要な人員を選び要望に応える事が出来る体制にしていきたい。

その為には再度登録制度発足後の卒業生を含めた会員に対して登録者

を募り、多くの方から登録の申し入れがある事を期待したい。  
募集時期に関しては、通例6月初めに会員に「会費納入お願い書」等の書類の発送に同封して、期限を設け加入の意思のある方は事務局宛に連絡をもらう事とした。

### ③ その他

支援活動に必要なスコープ等の機材を支部ごとに購入保管についての意見が交わされたが、保管場所・管理の面で問題があるとの事で、当面は登録者自身の手持ち機材を活用する事とした。

いずれにしても、有事が発生した場合は支援活動のネットワークを最大限に活用できる様、お互いの情報連絡を密にする事が大切であるとの認識を改めて確認をした。

## 第7号議案 その他

### ① 支部会計について

従来支部活動に対して企業寄付金等の特別会計があったが、近年は一部の支部のみであり、収支状況が思わしくない傾向となり、その為支部総会に出席するのに個人負担金が大きくなってきている。

現在アップール会本部の収支バランスについては、特別な記念行事がない限り、収入額と支出額がほぼ同額の状態となっており、預貯金額がそこそこあるのが現状である。

多少の預貯金を取り崩して支部会計の負担を軽くする為、ついでには総会に出席される方への負担金の軽減を考え、支部会員からの会費入金数に一定額を乗じた助成金額（@700円×会費口数）の単価の増額や、支部総会出席者に対して一定額を乗じた金額の支給等の意見が出されたが、本日の役員会では方向性が見いだせず、それぞれの支部に持ち帰り意見を纏めて、次年度の役員会で討議して結論を出すという事です承した。

以上、本日の議案審議全て終了し閉会。

## [資料編]

別添資料1 2018年度 アップール会本部 収支決算書

別添資料2 2019年度 アップール会支部活動助成金 支払明細書

別添資料3 2019年度 アップール会本部 収支予算書(案)

## 2018年度 アップール会本部 収支決算書

[ 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 ]

収 入		支 出	
摘 要	金額(円)	摘 要	金額(円)
前期繰越金	5,508,111	支部活動助成金	272,300
第58期生入会金 (@30,000×36名)	1,080,000	本部役員会開催費	577,719
		支部総会出席役員旅費等	200,180
年会費 (@2,000×369口)	738,000	学生会バスツアー援助金	281,940
自動振込 134口		災害援助ボランティア活動関係費	5,924
振替振込 231口		会費納入願書等郵送費	104,972
現金 4口		年会費振込手数料	27,630
役員懇親会費	50,000	振替振込手数料 24,280	
		自動振込手数料 3,350	
預金利息	708	卒業式・入学式祝電代等	7,464
ゆうちょ銀行 700		後藤前学長逝去に伴う告別式旅費等	50,512
三井住友銀行 8		会長交代による引継ぎ業務打合せ旅費等	40,540
		会計・事務処理業務費等	249,840
		雑費	2,830
		次期繰越金	5,554,968
合 計	7,376,819	合 計	7,376,819

上記 記載事項について相違ないことを認めます

2019年4月19日

会計監査

本間 欽吾 印

中野 栄介 印

## 資料 2

## 2019年度 アップール会支部活動助成金 支払明細書

(2018年度本部会費納入ベース)

支払日 2019年4月19日

支部名	会員数	会費入金 口数	入金率 %	支部活動助成金		受領印
				単価(円)	助成額(円)	
北海道	27	6	22	700	4,200	
東北	162	63	39	700	44,100	
関東	244	61	25	700	42,700	
信越	44	12	27	700	8,400	
静岡	133	25	19	700	17,500	
名古屋	90	20	22	700	14,000	
近畿	475	96	20	700	67,200	
中国	79	17	22	700	11,900	
四国	125	32	26	700	22,400	
九州	229	37	16	700	25,900	
計	1,608	369	23	700	258,300	

2019年4月19日

## 2019年度 アップール会本部 収支予算書(案)

[ 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 ]

収 入		支 出	
摘 要	金 額(円)	摘 要	金 額(円)
前期繰越金	5,554,968	支部活動助成金	258,300
第59期生入会金 (@30,000×34名)	1,020,000	本部役員会開催費	600,000
年会費 (@2,000×380口)	760,000	支部総会出席役員旅費等	300,000
役員懇親会費	60,000	学生会バスツアー援助金	300,000
預金利息	710	災害援助ボランティア活動関係費	6,000
ゆうちょ銀行          700		会費振込用紙及び封筒作成費	150,000
三井住友銀行          10		会費納入願書等郵送費	110,000
		年会費振込手数料	28,500
		振替振込手数料      25,000	
		自動振込手数料      3,500	
		卒業式・入学式祝電代等	8,000
		会計・事務処理作業費等	250,000
		雑費	5,000
		次期繰越金	5,379,878
合 計	7,395,678	合 計	7,395,678